



実りある二学期に！

猛暑、酷暑、炎暑など、暑さを表す時候の言葉がまさにピッタリするほど、ことのほか暑かった8月が終わりました。統計以来113年、最も暑い夏だったとのこと。

9月に入り少しはしのぎやすさが感じられると思いきや、厳しい残暑はまだ続くような気配で、秋らしさを感じるのはずっと先のことになりそうです。

2学期を迎え、夏の思い出を抱えた子どもたちが再び南小へ帰ってきました。夏の間眠っていた学校が、子どもたちの歓声に目を覚まし活気を取り戻したように思えます。ひとまわり大きくなった子どもたちが、今学期はどんな活躍を見せてくれるのか、今から楽しみです。

2学期は、学年がその学年らしさを一層深める時期であると言われます。真剣に学習に取り組む意欲、積極的に参加し活動する態度、協力と思いやりの心など、各学年の発達段階に即して身につけさせ、伸ばしていきたいと思えます。皆様方のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



“南小の「くすのき」は、三本の合体木”

本校の象徴となり、多くの卒業生を送り出してきた「くすのき」。イラストレーターの黒田征太郎氏が、戦時中に疎開され本校に通っておられた時の思い出も、大きな「くすのき」だったとのこと。

夏休みの宿題でしょうか、6年生の子が「先生、くすのきは、何年ぐらいたっているのですか。」と聞きにきました。私は、「旧校舎の写真にも写っているし、おそらく学校ができた時に植えられたのだろうね。もうすぐ、創立100周年を迎えるから、100年以上はたっているでしょうね。」と答えました。でも、「100年にはしては幹が太いなあ」とか「根もとから太い幹が2～3本もあるなあ」と不思議に思っていました。

先日、本校の校長先生だった長谷川美雄先生が来られて、次のようなお話をされました。『あの「くすのき」は、大正2年の創立時に当時の教頭先生が池の横に3本のくすのきを植えられたのだが、あまりにも近くに寄せて植えられたので、成長していくにつれて3本が合体してしまったものです。』『当時の教頭先生が、合体木を考えられて植えられたのかどうかはわかりませんが、毛利元就の「3本の矢」のように、一人ひとりの力は弱いが3人寄れば強くなることを教えられたのかもしれない。南小の子ども達が協力しあってがんばってくれることを願って植えられたのでしょうね。』と話してくださいました。

P T A 愛校作業 ありがとうございました！

8月28日は愛校作業にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。おかげをもちまして、見違えるほどきれいになり、すっきりした気分です。2学期をスタートすることができました。ありがとうございました。

10月・11月・12月の行事予定

10月



11月



12月



1日(金) 3年校外学習	1日(月) 全校朝会	1日(水) 地区児童会
2日(土) 6年親子フォーラム	5日(金) 猪子山活動	10日(金) 大そうじ
4日(月) 全校朝会	6日(土) 4年親子フォーラム	16日(木)17日(金)20日(月)21日(火) 期末懇談会
5日(火) 不審者対応訓練	13日(土) 3年親子フォーラム	21日(火) 給食終了
6日(水) 1年校外学習	18日(木) マラソン大会	22日(水) 終業式
7日(木) 市内陸上記録会	19日(金) 2年保育園交流会	24日(金)～ 冬休み
8日(金) 2年校外学習	22日(月) 創立記念鑑賞会	
14日(木)～15日(金) 5年やまのこ	25日(木) 1年幼稚園交流会	
20日(水) 5年校外学習		
21日(木) 3・4年いもほり		
23日(土) 5年親子フォーラム		
28日(木) 音楽集会リハーサル		
29日(金) 音楽集会(祖父母学級)		
30日(土) 環境活動発表会		



都合により日程等が変更になる場合がありますので、各月の学年通信等でお確かめください。

運動会の頃になると思い出すお話があります。

『私の孫はね、運動がからっきし駄目なんです。走り競争してもいつもビリッコでしてね。この間の幼稚園の運動会でも、やっぱりビリッコを走っていたそうです。途中で孫の前を走っていた子どもが転んだんだそうです。そしたら孫の奴、転んだ友達が起き上がって走り出すのを待っていてやって、まためでたくビリッコになったんですよ。親も親で、そのことを喜んで話してくれましてね。ハハ……』

さも嬉しそうに話してくださったおじいちゃんの笑顔が、今も心に焼きついています。人を蹴飛ばしてでも、先へ出ようとする人の多い今の世の中で、『あんた馬鹿ね！転んだのを幸いに追い抜いてゆけばみじめなビリッコの思いをしなくてもすんだんじゃないの！』と言いかねない人が多い中で、そのあたたかく、汚れなく、純なる心をそっと大切に見守り育ててやろうとしてくださる両親やおじいちゃんの姿は、転んだ子どもが起き上がるのを待っていてやるお孫さんの姿と共に、なんともうれしい光景です。

一般世間のモノサシは、たとえばマラソンならいかに早く走るとか、いかに能率よく仕事ができるかというところにあるけれど、別のモノサシもあるのではないのでしょうか。

ウサギと亀が走り競争をしたという昔話がありますが、亀がウサギに勝ったというけれど、どんなに走っても、ふつうに走ったら亀がウサギに勝てるはずはありません。ウサギが怠けて昼寝をしていたから、亀が勝つことができたのです。

そのことにどれだけ努力を払ったかというモノサシで測れば、ビリッコの亀が一番ということになります。一番二番という序列や結果よりも、その中身に何が盛られているかということのほうが大切ですし、その過程が大切ということではないのでしょうか。一番二番より素晴らしいビリッコもあるということではないのでしょうか。

どこに視点を置くか、考えてみたいものですね。

